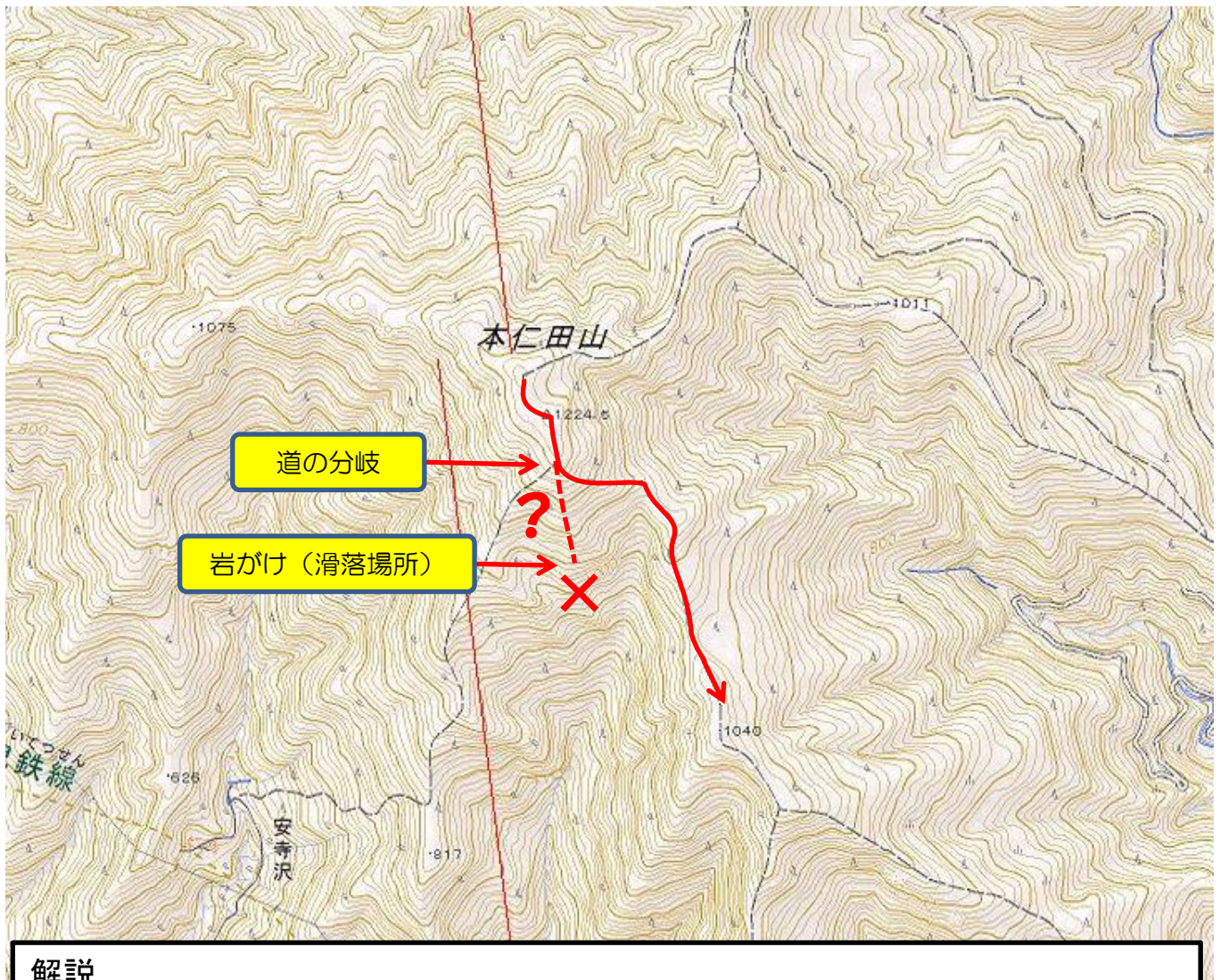


本仁田山遭難(2010年7月)

トレ・ラン中に道に迷い、岩場に出てしまった。下の様子を見に行ったところ、落ち葉に足を取られ滑った。斜面が急で止めることができず、滑落、死亡した。



解説

近年、トレイル・ランニングが人気でトレ・ラン練習中の道迷いが増加している。山を走るため、地図はあまり見ないのだろう。しっかりとした道ばかりではないのも要因の一つである。

今回の事例は、登山者だけではなく、山に入るすべての方に警笛を鳴らしている。岩が出てきたから様子を見に行った。岩のがけは、当然危険であるにも関わらずである。自ら危険に近づいてしまったのだ。

地図を見てみよう。本仁田山から南に尾根が伸びている。道の分岐場所は尾根が丸い(尾根らしくない)。平らな尾根から急に下る場所は、尾根が丸いため(尾根らしくない)、よほど道がしっかりしていないと迷ってしまう。今回、この道の分岐に気付かず、そのまま直進してしまった。トレ・ランのスピードがそうさせたのかもしれない。

山の遭難の4割は道迷いである。道迷いからの滑落遭難はこの4割には含まれていない。実際の道迷いは、もっと多いといわれている。「あれっ！おかしい」と思ったら、「来た道に戻る」。危ないところには「近づかない」ことが大切である。